

こさい太郎の 港区オンリーワン構想

100年先を見据えた区政改革を



こさい太郎

(34才・無所属)

<http://www.kosaioffice.com/>



こさい太郎の 港区オンリーワン構想

100年先を見据えた区政改革を

区民のみなさんが「港区に住んでよかった」と思えるように港区政は最大限の能力を発揮しているのか、答えは、「まだまだ改革・発展可能な潜在能力を秘めている」。私が、区議会議員として9年間区政に携わる中で得た結論です。

しかし、区政の現状は、税収が潤沢なことで改革意欲は低下し、お上意識や縦割り構造は払拭できず、潜在能力を発揮しきれずにいます。

私は、これまで「難しい」「無理」と思われていたような取り組みを積極果敢に推進することで、区政は大きく変わる、潜在能力を引き出せると確信しています。

たとえば、減税、民間人の任用、区民の参画などなど...

さらに、積極的に区民にあらゆる情報を公開し、区民への説明責任を果たし、政策立案段階から区民が参画するしくみをつくることにより、主権者たる区民の意思がしっかり反映する区政を実現できます。

「素晴らしい港区を将来世代に引き継ぐために大きく舵を切る」、今がチャンスです。ぜひ、私とともに、多くの区民のみなさんに港区の未来予想図、将来の姿を考えて頂きたいのです。



オンリーワン構想とは...

いま現区政は、「全ての面で世界ナンバーワン」を目指そうとしています。

しかし、私の示す「オンリーワン構想」は、単にNo.1を目指すのではなく、「『港区だからこそ』」港区にしかない『豊かで個性的な『オンリーワン【Only1】』のまちづくりを進めよう!』という意味を込めています。

区民のみなさんが知恵やアイデアを主体的に出しあい形づくられるそれぞれの「オンリーワン」が集集するとき、将来世代に自信をもって引き継げる港区になるはずですよ。

私は、区民のみなさんや各地域に『オンリーワン構想』を呼びかけることで、新しいまちづくりをおこします。

こさい太郎の「オンリーワン提案」



区民主体・納税者起点の港区政へ

大きな区役所を改め、
区民本位のスリムな区政へ！

詳しくはこちらを

50億円減税の実現 区役所職員の1000名削減

計画なき開発優先のまちづくりから
生活者起点・区民主体のまちづくりへ

都市再生の流れが港区に大きな影響を与えています。秩序ある良好な区民主体のまちづくりができるように、改革を断行します。

国・東京都からの権限委譲の要請(構造改革特区申請) 地域住民主体のまちづくりに向けたしくみづくり(地区計画制度の積極活用) まちづくりマスタープラン見直しにより生活者の視点を回復させる

都心港区だからこそ環境本位
緑あふれる生活都市・港区を

詳しくはこちらを

都市生活は、地球環境への大きな負荷のもとに成り立っています。一方で、都市生活者だからこそ体と心のやすらぎが必要です。都心港区は、自然を尊び、地球環境と共生する取り組みを率先して行ないます。

ゴミの概念を変え、再資源化のための徹底したリサイクルシステムの構築 連続した緑と水の道線を確保し、公園都市・港区を実現します 学校をはじめ、公共空間を中心に緑化・芝生化を積極的に図ります

大人の論理から、こどもの視点を大切に
こどもたちがいきいきと成長できる港区を

民間主体の保育環境整備と家庭での保育の援助
放課後の楽しい遊び場の提供
学校教育への民間人、地域住民の積極参画

試験偏重でなく、「福祉・農業・環境」などの体験プログラム
学校の安全確保...

社会的・経済的弱者の方々を社会全体で支える福祉の原点へ

ひとり暮らしのお年寄を手厚く支える施策

高齢者介護への支援充実

議論あふれるガラスばりの区政へ
区民参加・情報公開・説明責任...基本条例の制定へ!!

審議会行政を見直し、政策立案段階からの区民参加を実現
区民との対話集会(タウンミーティング)を
最低月二回、各地域をまわり行なう
補助金改革 公正で透明な入札に

区報発行の週刊化、紙面刷新、より多様な配布方法の実現
ホームページを利用者本位にリニューアル
メーリングリスト型の情報発信(週一回)
区役所への民間人積極登用 口きき政治からの脱却

重点政策

こさい太郎の「オンリーワン提案」



『新生・港区』
まず、区民税減税からはじめよう!

50億円減税!

できます そして やります!

2年以内に
実現

私たちが税金を払いすぎているとしても、それが戻ることはありません。役所は「必ず使い切る」体質を持っているからです。3年続けて100億円以上のあまりを生じた港区は、今まさにこの状況です。私は、減税を断行し、「税金は必要な分だけ預かる」あたりまえの区政を実現します。



2年以内に計画策定、
3年以内に実行開始

減税実現のためにも必要なのは
区長と区役所のスリム化!

区役所職員の 1000名削減

自動車の運転、公園の清掃、ごみ収集や区民センターの管理（財団外向など、これらの仕事のほとんどは、一人あたり約1000万円の経費がかかる正規職員で対応しています。民間・区民で十分担えるこれらの仕事を中心に1000名の職員を削減し、できる限り区民や民間に任せる区政に転換します。なお、原則として退職者を補充しない形式で実行し、10～15年の時間を要します。

区長自身の 自己改革

4年で2,300万円の退職金
1/2以上の大幅カット
交際費の用途公開と大幅減額
公用車は廃止し、使わない

すぐ実現

50億円減税のシュミレーション

100億円予算が
あまる財政構造

役所に任せ、
使い切るのか?

必要な分だけ
税金を預かるしくみ

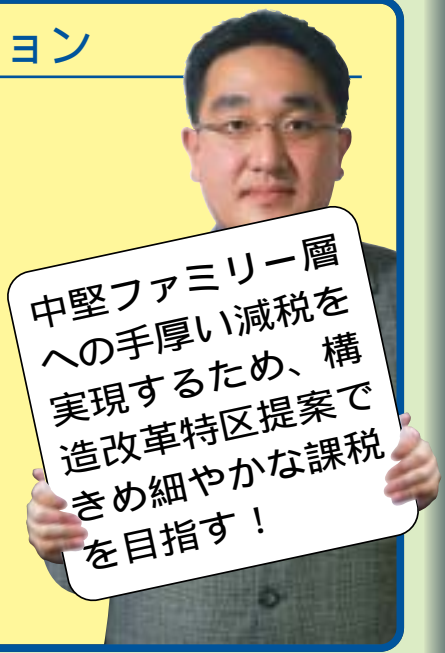
NO!

減税のモデルケース

(夫婦子ども2人のサラリーマン家庭)

年収	年間減税額(見込)
510万円	10,700円
700万円	22,500円
1000万円	48,700円

中堅ファミリー層
への手厚い減税を
実現するため、構
造改革特区提案で
きめ細やかな課税
を目指す!



こさい太郎の「オンリーワン提案」



原っぱを
つくる!

<校庭を緑の拠点に>
こどもたちが走りまわれる「原っぱ」
学校を中心に、整備をすすめます

はたらくお父さん・お母さん支援
**民間
主体の**
保育施設誘置・転換と家庭で
子育てするみなさん支援の創設

将来を担う
こどもたちの
健やかな
成長を!!

人生の
先輩

の経験や知恵を
こどもたちに!
世代間のふれあいや、学校の先生以外の
大人とのふれあいを積極的に提供します。
学校への民間人参画 放課後の学校開放
学校施設に子 育て、高齢者向け施設を併設

行政改革実現の4つの原則(理念)

官は民の補完的な役割に徹し、
民間の競争原理のはたらく分野、住民の自主的活動に任せられる分野には原則として介入しない。

●
民間の競争原理からはじかれる部分、
いわゆる社会的・経済的弱者(障害者・高齢者・子供など)を社会全体で支えるため、
また、社会生活環境の整備や保全などを行なうための
公正な税配分を行なうという政治の基本的な役割を原則として超えない。

●
社会全体の活力をそぐ「結果平等」を求めるのではなく、あらゆる人に等しく
チャンスがあるという「機会平等」をできる限り保障する。

●
区民の税金を預かり、それを公正に配分するという政治の原点に立脚し、
いわゆる無駄な歳出は削減し、常に効率性を追求する。

応援者メッセージ



田中秀征 たなかしゅうせい
元経済企画庁長官、福山大学教授、「民権塾」主宰

1940年長野県生まれ。東京大学文学部、北海道大学法学部卒。1983年衆議院議員に初当選。1993年6月に新党さきがけを結成、代表代行。細川政権の発足に伴い、首相特別補佐。第一次橋本内閣で経済企画庁長官。1999年より「民権塾」を開塾。『舵を切れ一質実国家の展望』『梅の花咲く 決断の人・高杉晋作』など著書多数。

小斉太郎君を応援しています。

田中秀征さん（元経済企画庁長官・福山大学教授）

小斉太郎くんは、新党さきがけで出会って以来の親しい関係です。今でも私が主宰する民権塾や都市政策研究会と一緒に勉強しています。私が最も敬服しているのは、この十年間、彼は「港区政」一本に打ち込んできていることです。際だった人材ですから、都政にも国政にも強い誘いがあったことを私も知っています。しかし、彼はいつでも港区政を優先してきました。志を貫く彼の姿勢には驚かされます。小斉君はいつも納税者の側に立って区政を考え実績を挙げてきました。自ら率先して身を削る強い意志もあります。区議会議員の立場よりも、区政を運営する側に立てば、彼は一層大きな力を発揮すると信じています。願わくば、全国的な模範となるような思い切った行政改革や、新しい型の行政サービスを示してほしいものです。私は彼が、良い意味での土着性を持っていることも気に入っています。港区に育ち、育てられた彼にとっては、港区がすべてでもあります。その強い愛着が、彼を港区政の改革に駆り立てているのかも知れませんが、若いと言われた彼も、経験を積んで働き盛りを迎えようとしています。天の時、地の利、人の和と言いますが、小斉君の活躍の場がいよいよ整ってきたと感じ、期待が大きくなっています。

幸山政史さん（熊本市長）

幸山政史熊本市長と地方自治のあり方について懇談しました。（2003/11）



幸山市長は、2年半前、37歳で自民党県議を辞し市民党的立場で現職市長に挑み、『しがらみを吹き飛ばし市政刷新を』をスローガンに見事に当選された青年市長です。

わたしは、こさい太郎君を応援しています！



清宮克幸さん

（早稲田大学ラグビー蹴球部監督）
赤坂在住



『若い力が
区政を変える。
応援しています！』

小斉太郎の略歴

1970年(昭和45年)1月16日東京・渋谷区生まれ。公立小学校から私立早稲田中学・高等学校に入学。1983年に港区南青山に転入。1993年早稲田大学社会科学部卒業。都議会議員秘書・代議士秘書を経て、1995年(平成7年)港区議会議員選挙に立候補(新党さきがけ公認)、最年少で最高位当選。1997年新人議員3名で「みなとかがやき」を結成。1998年新党さきがけを離党、無所属に。1999年再選、2003年(平成15年)再び第二位で当選し現在に至る。趣味は、ボーリング・草野球・ゴルフなど。



こさい太郎 34歳の政策提言

<http://www.kosaioffice.com/>
e-mail taro@kosaioffice.com